

研究データ利活用協議会

RDUF

Research Data Utilization Forum

# 研究資料・実験機器への PID付与検討 小委員会 (2022.4～)

---

2022年11月  
青木学聡

# 委員(2022.11現在)

---

- 青木学聡 (名古屋大学)
- 福田和代 (海洋研究開発機構)
- 岡山将也 (日立コンサルティング)
- 松本崇博 (高輝度光科学研究センター)
- 中西秀哉 (核融合科学研究所)
- 田辺浩介 (物質・材料研究機構)
- 宮入暢子 (フリーランス)

# 設置目的

---

- 最初からデジタル(ボーンデジタル、**born-digital**)な対象に加え、研究に用いた試料、史資料、機材等の有体物に関する情報もサイバー空間において参照できるようにすることが必要
- これら有体物としての研究資源に付与する永続的識別子(**PID**)とこれに付随するメタデータの管理と利活用に関する調査

# 活動内容

---

- 試料・史資料や実験・観測機器等の研究資源管理の効率化、及びこれらを用いた研究成果のビジビリティ向上のために必要とされるデジタル技術・運用制度に関する課題の取りまとめ
- 研究資源への **PID** とメタデータの付与・管理に関する世界的動向を、制度面、技術面双方より調査し、日本語レポートとして作成する。

# 機関における試料・資料・史料 ・実験機器・研究データの管理

- どの研究機関でも、「管理番号」を振っている。
  - JAMSTEC: 生物、岩石、航海記録...
  - NIFS: 装置セットアップ、実験データ、運転記録...
  - JASRI: ビームライン(施設)、エンドステーション(利用者が設置する分析システム)、分析データ...
- 「既にDBとして整理・管理している」「DB化の下地が整っている」場合が多い
  - リソース(=資金)の問題は大きい
  - より良い有体物の管理手法への関心

「ラボ → 機関 → 世界 → 未来」につながるIDとメタデータ管理の実践例を収集できないか?

# 実践例の収集・整理の観点(案)

---

機関で定型的に収集・整理している研究資料等を対象に

- 対象となる研究資料等の概要
- 管理する部署
  - 収集・整理・管理の方法
- 機関外連携
  - 業界標準、世界標準への適合
  - 業界標準、世界標準への提案(コミットメント)

が横並びでそろうだけでも意味がある?

# PID for Instruments (PIDINST)

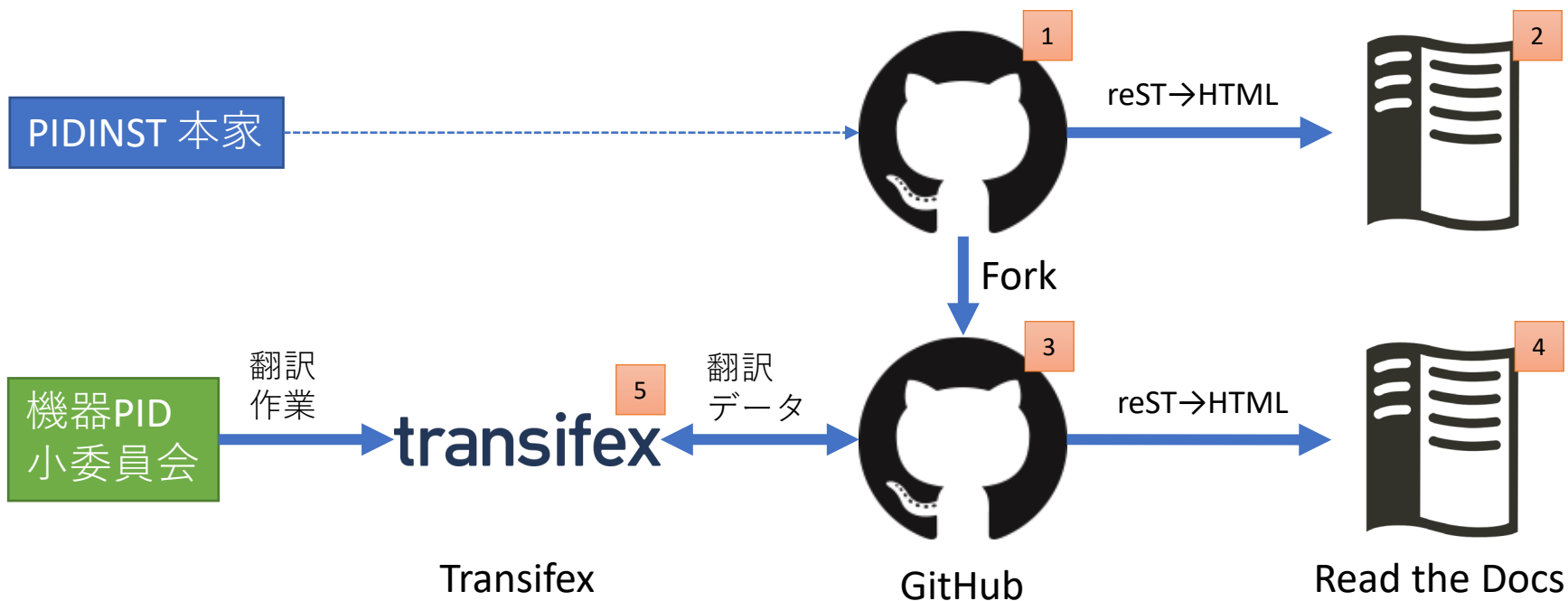
---

- <https://docs.pidinst.org/en/latest/>
- 字面だけなら「実験機器へのPID」  
→ PIDそのものではなく、  
「実験機器を特定するメタデータ標準」が中心
- RDA の WG として活動、文書を取りまとめ

「短い文書なので和訳してみよう」

→ 「機関におけるよりよい有体物管理の参考にしよう」

## PIDINST翻訳作業



1. <https://github.com/rdawg-pidinst/white-paper/>
2. <https://docs.pidinst.org/>
3. <https://github.com/takaakiaoki/pidinst-white-paper>
4. <https://pindinst-white-paper.readthedocs.io/>
5. <https://www.transifex.com/pidinst-japanese-translation-project/>



# まとめ

---

- 有体物の研究資料を中心に、研究機関が持つ課題のヒヤリング
- PIDINST和訳を通じ、実験機器や研究資料へのメタデータ生成(とPIDの付番)のユースケースを学ぶ